

## 令和3年度事業報告書

当協会は、県内畜産農家の経営の安定に寄与し、本県の畜産振興を図るとともに、畜産や牧场景観を広く一般県民等に理解してもらうため、県立八ヶ岳牧場及びまきば公園の指定管理者として、基本協定書に基づき両施設の事業目的を達成するために取組んだ事業実績は次のとおりである。

### 1) 八ヶ岳牧場管理受託業務

#### (1) 県有肉用繁殖牛の飼養、生産子牛の育成及び売却業務

県有肉用繁殖牛192頭を本場で繫養し、系統毎に選抜された優良な繁殖牛に対して計画交配を行い、これら母牛から産まれた優良子牛を育成し、県内の肉用牛振興地域の農協等へ繁殖又は肥育素牛として147頭を売却した。また、雌の一部を牧場に保留し繁殖牛の更新を図るとともに、繫養計画から除外した繁殖牛は、山梨食肉流通センターへ廃用出荷を行なった。

一方、令和元年にヨーネ病の患畜が確認されたことに伴い、清浄化農場への復帰を目指して県有牛全頭を対象に年一回ヨーネ病の定期検査を実施するほか、分娩した母牛並びに生産子牛については2週間以内に、また、売却予定の育成牛は売却前にそれぞれPCR検査(直腸内のヨーネ菌遺伝子検査)を実施し、保菌牛の早期発見・淘汰並びに牛舎消毒等蔓延防止対策を継続して行った。

[表1] 県有牛の飼養状況

区分 性別	動物(成牛)頭数(頭)									生産物(子牛・育成牛)頭数(頭)							合計		
	前年度より	生産物区分替	導入	廃用	売却	保管転換	死亡	自主淘汰	小計	前年度より	出生	動物へ区分替	売却	廃用	保管転換	死亡		自主淘汰	小計
雌	192	18		-7			-2	-4	197	97	73	-18	-59	-1		-2	-3	87	284
雄																			
去勢									57	101			-88			-1		69	69
計	192	18		-7			-2	-4	197	154	174	-18	-147	-1		-3	-3	156	353

売却頭数は、元年度にヨーネ病が確認され患畜の処分や同居牛の自主淘汰の影響により減少していたが、3年度は前年度より14頭増加した。売却先は、肉用牛生産が盛んなJA梨北が約7割占め、ヨーネ病の清浄化農場となるまでは、妊娠牛の売却も控えていることから、繁殖素牛の需要が多い農協への売却割合は少なかった。

[表2] 農協別売却頭数

(頭)

農協別売却頭数														
区分	梨 北							笛 吹		南アルプス市		山梨みらい	山梨県酪	合計
	小淵沢	高根	清里	穂坂	白州	明野	韮崎	八代	笛南	野々瀬	南湖			
去勢牛		7	12	9	5	1	25	11	6			12		88
育成雌牛		2	10	10	4	1	15	9	3			5		59
育成妊娠														
経産妊娠														
計		9	22	19	9	2	40	20	9			17		147

(2) 農家家畜受託状況

夏期受託家畜は、天女山分場を中心に放牧管理(5/1~10/31)を、冬期受託家畜は、本場牛舎で飼養管理(11/1~4/30)を行い、農家等が保有する乳用牛、肉用牛の受託管理の状況は[表3]、[表4]のとおりで、本年度の牧場利用頭数は実頭数・延頭数ともに過去最高頭数を記録した。特に肉用牛においては夏期に入牧希望が殺到したことに加え、冬期預託において新牛舎を繁殖牛用に使用したため延頭数は前年対比141%となった。

前年度に引き続き、冬期受託牛については県有牛との飼養管理エリアをゾーニングによる衛生管理を行い、また、継続して預託されている牛は翌年度への繰り越し処理を行った。

また、受託期間中農家の希望に沿って、種付け月齢に到達した牛に人工授精及び受精卵移植による種付けを行い、[表5]のとおりそのほとんどが受胎(妊娠)した。不受胎牛の多くは繁殖不良として入牧してきた牛や、子宮・頸管の構造に異常が見られた牛であった。

[表3] 農家家畜受託状況

(頭)

		受託頭数			
		乳用牛	肉用牛	馬	合計
前年度より継続		156	37	0	193
本 年 度	入牧頭数	241	279	0	520
	退牧頭数	195	208	0	403
	死亡頭数	3	0	0	3
合計		199	108	0	307

[表4] 受託家畜の実頭数及び延べ頭数

(頭)

区分	乳用牛	肉用牛	馬	合計
受託実頭数	397	316	0	713
受託延頭数	84,179	50,696	0	134,875

[表5] 受託家畜の種付状況(AI:人工授精 ET:受精卵移植) (頭)

	種付頭数	AI 受胎頭数	ET 受胎頭数	合計受胎頭数	妊娠率
乳用牛	178	148	26	174	97.8%
肉用牛	124	110	6	116	93.5%
合計	302	258	32	290	96.0%

(3) 牧草地等の維持管理業務

本場並びに分場の牧草地に対し、[表6]のとおり計画的に肥料散布を行い良質な牧草を生産するとともに、冬期用貯蔵飼料(サイレージ)の生産状況は[表7]のとおりである。

貯蔵粗飼料のロールサイレージ及び乾草の生産量は、春先の低温及び梅雨やお盆時期の長雨等の異常気象の影響により刈遅れが発生し、目標の刈り取り面積に達せず、1,674ロール(前年対比108%)であった。

また、牧草地内の播種、雑草の防除や牧道の補修整備をはじめ、場内の保安林の間伐や倒木の撤去並びに車両・農機具等の点検整備と修理を随時行い、草地並びに車両・農機具等の保全管理に努めた。

[表6] 肥料散布状況

肥料散布面積と施肥量			
区分	放牧地	採草地	合計
散布面積	249.8 ha	76.7 ha	326.5 ha
施肥量	牧草地用複合肥料	135.0 t	191.4 t
	粒状炭酸苦土石灰	45.3 t	101.4 t
	計	180.3 t	292.8 t

[表7] 牧草生産状況 (t)

牧草生産量(生草換算)					
区分	放牧地	採草地			合計
		サイレージ用	乾草用	計	
生産量	5,516	2,511		2,511	8,027

(4) 農家の巡回調査指導業務

八ヶ岳牧場への預託牛飼養農家及び当牧場からの売却牛飼養農家等の巡回調査を実施し、発育や繁殖状況等について調査し、飼養・繁殖管理技術に係る指導を行った。

[表8] 農協別農家巡回状況 (戸)

区分	梨北農協	県酪農協	笛吹農協	クレイン	山梨みらい	南アルプス	合計
戸数	乳牛	1		1			2
	肉牛	4		3	1	3	25
合計	25	1	4	14	1	3	48

(5) 受精卵移植普及定着化業務

協会では、畜産酪農技術センター(受精卵供給メインセンター)に協力して、当場で繫養管理している優良雌牛(24頭)に過剰排卵処理(ホルモン投与)を行い供卵牛として提供するほか、受託管理している農家預託牛に受精卵移植を行なうなど、サブセンターとしての役割を果たした。

(6) 家畜糞尿堆肥化処理業務

家畜糞尿処理施設において、牧場内や県馬術競技場並びに北杜市小淵沢町内の畜産農家及び乗馬クラブから排出される家畜糞尿の堆肥化処理 [表9]を行い、生産した牧場の堆肥製品については、峡北地域の野菜農家を始め、峡東、峡中地域の果樹農家等に販売を行なった。また、採草地への散布も行った。

[表9]家畜糞尿堆肥の生産状況

( m<sup>3</sup> )

家畜糞尿搬入量と製品堆肥搬出量				
区 分	八ヶ岳牧場	馬事振興センター	小淵沢町流通組合	合 計
糞尿搬入量	5, 184	1, 000	3, 008	9, 192
堆肥生産量	2, 559	502	1, 568	4, 629
堆肥搬出量	2, 530	528	1, 587	4, 645
販 売 量	923			
圃場使用量	1, 607			

(7) その他の業務

ア. 職員研修等

協会職員の資質の向上を図るため、コロナ禍で中止された研修もある中、リモートも含め、実施された専門技術研修や作業機械免許等取得講習会等に延べ13名が参加した。[表10]

[表10] 研修内容

	研修期間	日数	研修名	研修内容	人数	研修機関
1	6月22～25日	4日	中央畜産研修	肉牛生産技術指導者養成	1人	(独)家畜改良センター
2	7月2.5～9日	6日	農業機械研修	トラクター単体	1人	山梨県立農業大学校
3	10月5日	半日	危険物取扱者保安研修	危険物取扱者保安研修	1人	峡北消防本部
4	10月11～15日	5日	中央畜産研修	肉牛生産技術指導者養成	1人	(独)家畜改良センター
5	1月18日	1日	安全運転管理者講習	交通法令、事故防止対策	1人	安全運転管理者協議会
6	1月18～19日	2日	建設機械作業研修	車輛系建設機械運転技能	1人	PEP 建機教習センター
7	1月21日	半日	産業動物研修会	乳用子牛の管理	2人	WEB(NOSAI 山梨)
8	2月14～15日	2日	建設機械作業研修	車輛系建設機械運転技能	1人	PEP 建機教習センター
9	3月24～25日	2日	建設機械作業研修	車輛系建設機械運転技能	1人	PEP 建機教習センター
10	3月17日	半日	動物取扱責任者研修	動物愛護及び管理等法令	2人	WEB(山梨県中北保健所)
11	3月18日	半日	全国公共牧場研修	公共牧場運営改善	1人	WEB(日本草地畜産協会)

## イ. 黒毛和種基本登録業務等

八ヶ岳牧場に預託されている預託牛や牧場に繋養している県有牛、並びに県内農家で飼養されている黒毛和種肉用繁殖雌牛の和牛基本登録を行なうため、登録審査員資格を有する職員を派遣し93頭の登録を行なった。

また、山梨食肉流通センターで開催された県、JA並びに食肉流通センター主催の肉用牛枝肉共進会の枝肉審査員に職員を派遣した。

## 2) まきば公園管理受託業務

### (1) まきば公園の利用状況

4月20日に開園。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、県からの臨時特別要請及び国からのまん延防止等重点措置追加により8月14日から9月12日まで臨時休園となった。山梨グリーンゾーン認証施設として認証され、開園期間中は公園や資料展示室の出入り口に消毒液を設置するとともに、マスクの着用や三密防止対策を執る等感染拡大防止に努め、11月10日までの開園期間中に123千人(対前年比88.0%)が来園したが、コロナ禍前の例年の230千人に比べ50%程の来園者数に止まった。[表11]

また、公園施設の保守管理や植栽・牧草地の肥培管理を行うほか、協会資産のポニー舎及び動物舎の外壁並びに屋根の全面塗装工事を行うとともに、ふれあい動物の飼養管理及びめん羊の増殖管理を行った。

[表11] 月別入園者数の状況

(人・台・団体)

月	開園 日数	推定入園 車両数	推定 入園者数	車両 /日	入園者 /日	予約 団体数
4月	10	1,660	4,090	166	409	2
5月	26	8,740	21,790	336	838	5
6月	26	4,560	11,760	175	452	17
7月	28	8,850	23,330	316	833	28
8月	13	6,560	16,620	505	1,278	1
9月	15	5,290	13,030	353	869	7
10月	27	8,760	24,840	324	920	53
11月	8	2,960	8,040	370	1,005	13
合計・平均	153	47,380	123,500	310/日	807/日	126

### (2) 県有めん羊の増殖業務

まきば公園内の動物ふれあい施設において、サフォーク種の飼養管理を行うとともに、子羊34頭を生産し、県内農家等に8頭を売却した。

[表 1 2] 県有緬羊の飼養状況

(頭)

区分 性別	動物（成めん羊）頭数						生産物（子・育成めん羊）頭数						合計
	前 年 度 よ り	生 産 物 区 分 替	売 却	廃 用	死 亡	計	生 産	動 物 へ 区 分 替	売 却	廃 用	死 亡	計	
雌	32	14	7		2	37	19	14			5	0	37
雄	3	14	1		1	15	15	14			1	0	15
計	35	28	8		3	52	34	28			6	0	52

### (3) 畜産に関するイベントの開催実績

新型コロナウイルスの感染拡大防止措置として、計画していた毛刈り体験、牧場ウォーク、自然観察会等の公園のイベントはすべて中止した。

フェルト教室	(開催回数: 0回 参加人数 0名)
めん羊毛刈り体験実習	(開催回数: 0回 参加人数 0名)
自然観察会(山菜・きのこ教室)	(開催回数: 0回 参加人数 0名)
まきばウォーク	(開催回数: 0回 参加人数 0名)

### 3) 死亡牛焼却委託業務

県西部家畜保健衛生所からの業務委託契約に基づき、農家で死亡した月齢96ヶ月齢以上のBSE検査対象牛の保管・焼却並びに焼却施設の保守管理を行った。[表 1 3]

[表 1 3] 月別死亡牛の焼却頭数

(頭)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
焼却頭数	1	1	1	1	0	2	1	0	1	1	0	0	9

### 3. 附属明細書（事業報告関係）

令和3年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。